

真の文明世界の建設へ

明の

発行所
京都市左京区吉田神楽岡町3
有限会社清東社
郵便番号606
電話 171-2022 南

明主様御真筆

明主様御真筆

本教について(三) 会長 多田 光行

明主様の御教について

(その17)

く最後でいらっしゃったのではないかと
思います。
「神様の御目的である理想世界とはどう
いうものなのか」
「明主様の御教いはどのようにされてい
かれるのか」「私共人間は今後どのよう
に生きていけばよいのか」など最も
重要な問題を約四十分にお話して誰に
も分りやすく御説き下されたのであり
ます。しかも、有難いことにその時の御
言葉がレコードにそのまま録音されて残
されていることであります。

救い主・明主様が御肉体を通じて御神業
をあそばして居られました当時の生の御
声を通じて御教いの御言葉を現在でもい
ただくことが出来、御心に直接ふれさせ
ていただくことが出来ますのは私共にと
りまして何にもかえがたい幸せでありま
す。近き将来、永遠に世界中の人々が大
変な喜びと感激をもって、この御録音を

前々号(第23)、前号(第24)と引続
きまして、明主様が本教の概略について
お説き下されました御論文を拝読させ
ていただいております。前々回ではある
程度本教のことを已に知っている信徒
を対象に説いて下さった御教えを、前回
は「まだ本教を知らない人の為」にお説
き下されました御神書の一部をお取次
ぎさせていただきます。以上は何れも御
論文であり、活字を通してお説き下さ
ったわけでありますが、今回は、
明主様が御講演の形で自ら直接お話し下
さいました御教えをお取次ぎさせていた
だきたいと思っております。

明主様は、昭和廿六年五月廿二日、東
京の日比谷公会堂に於て、初めて世間一
般の方々を対象に御講演下さいました。
このような形で御教えをお説き下さり
したのは初めてであったと同時に、恐ら
く通じて御教えをいただくことになるであ
りましょう。

「先ず最初お話ししたい事は、これは誰
でもそうですけども、今文化が進歩して
いると、文化時代だとういふ事を言わ
れるのですが、この文化と文明とをこっ
ちやにしているのです。本当は違ひの
です。文明と文化とは、文明と文化とは
すね、この本当の、野蠻の少しもない
理想世界です。それが文明世界とこう
言うのです。文化と言うのはそうじゃな
い、これは野蠻から文明になるまでの中
間なのです。ですから、文化の化と言う
のは化物なのです。つまりお化けなのです
ね。で今世界人類を見渡した限りです
ね、お化けにほれこんじやった。でもう

これが一番結構なものだと、これが進歩
さえすればすね、いい世界が出来る
と、こう言うふうにも思っているのです。
ところが、今、私の言う文明世界です、こ
れは現代の人が考えているような、そう
言うその世界とは違ひののです。

明主様は、この御講演のために、原稿
(案18)を準備して下さって居りました
ようでありますが当日は、
「原稿に頼るとあんまり話が、窮屈に
なる」とお思いになったのか「時々、そ
く位にして、浮かび出たまま」をお話
下さったのであります。明主様は「浮か
び出たまま」と始めにさりげなく仰し
やうて居られますが、この御言葉は、こ
れから話すことはすべて「神智」(案
23、教32・6、教29・63、垂16・11、案23)
を通じてあることを御指示下さったも
のと受けとらせていただかねばならな

これが一番結構なものだと、これが進歩
さえすればすね、いい世界が出来る
と、こう言うふうにも思っているのです。
ところが、今、私の言う文明世界です、こ
れは現代の人が考えているような、そう
言うその世界とは違ひののです。

明主様は、この御講演のために、原稿
(案18)を準備して下さって居りました
ようでありますが当日は、
「原稿に頼るとあんまり話が、窮屈に
なる」とお思いになったのか「時々、そ
く位にして、浮かび出たまま」をお話
下さったのであります。明主様は「浮か
び出たまま」と始めにさりげなく仰し
やうて居られますが、この御言葉は、こ
れから話すことはすべて「神智」(案
23、教32・6、教29・63、垂16・11、案23)
を通じてあることを御指示下さったも
のと受けとらせていただかねばならな

御覧なさい、必ず病気ですね。自分が
病気を患えて、失業するとか、仕事が出来
ないとか、この肉体の病気で仕事が出来
ないのと、それから月給が貰えないとい
う二重の苦痛に遭うのです。そうして
自分一人じゃなくてすね、家族から、
親類、知己です、そういう人までマイ
ナスを与える。

以下2面へつづく

1面からのつづき

もつと解決されていなければならぬ。色々々まで偉い教祖も、開祖も、哲学者も、道徳家も、色々々偉い人が出ています。成程偉いですね、頭へ入墨したアフリカの蛮人みたいですね、ああいうものは確かに解決された、進歩していますね。そして実に綺麗なすべてが文化的になつて、いいんです。それでこの生命の安全と安全とまでは至っていないというものは、今まで出来た宗教の結び、そういうものは、それだけ力が足りなかつた。とにかく蛮人からですね、今、文化人だけ迄の力があつたですね、あつたけれどこれ以上の力はもうない。文化まで進歩させる力はあつたけれども、今度文明にさせるだけの力もない。そこでこの色々々素晴らしい発明です。発明がいい方へ使われないで、悪い方へ使われる。原子爆弾だつて一辺にですね、さつきの話みたいに、二千万人も殺せると言ふけれども、それを、悪い方へ使うからで、いい方へ使つたら、指の頭位のものです。それで汽車や、自動車、飛行機だつて、交通機関に使えば、あんな早く便利なものはないのだけれども、これを爆弾を落すものに使つたりする。まあ恐ろしい機械です。そうだからして、ただ今日の科学文化ですね、科学文化が進歩して、こゝまで来たけれども、肝心なですね……肝心なものが足りな

い。足りない為には悪い方へ使うから、それが人間の悩みなんです。そこでこれを、いい方へ使うような根本ですね、つまりこれが魂。魂を、悪を善にすればですね、いい方へ使うから立派な世界が出来る。これを、キリストは、天国は近づけり、と言いました。又御釈迦様は仏滅後弥勒菩薩が現れる。そして五六七の世が来るという事を言われましたが、只この点、御釈迦様は五十六億七千万年後と仰言つた。処がこれはね五、六、七と言ふ数字ですね、その数字を現わす為にさういふふうにお書きになつたと思うんです。本当に五十六億七千万年後の予言なんかするとしたらですね、御釈迦様の頭はどうかして、こんな遠い先の事を予言したつて、予言の価値はないのです。その時代になつたら一体地球の人類はどんなになつて、まあ想像もつかない程変な時代なんですか。そこで五、六、七という数字ですが、これは、信者の人はよく知つていますけれども、この説明は時間がかつて肝心な事が喋れませんか略しますが、とにかく、ああいう偉い人達が言われたという事は、私自身の考えで、これ程キリストは、天国は近づけり、と仰言るよりも、天国を造る、という事を言われたらよきさうなものが、実はそこまですでに世界が行つていなくなつた。何て言へば文化のですね進歩が、まだ本當の文明世界を造るまでには至つてい

かつた。だからこれはやむを得ないでもあるし、それからそれでよかつたので、ところが段々この物質文化が進歩して、兎に角今日のように、世界中殆んどもう共通になつてしまつた。こうして喋つてゐる事が地球の隅々まで聞えるのです。交通機関も一昼夜ながらアメリカへ飛んでいっちゃう。さうしてみると、もう物質文化の方は、この文明世界の条件は大体出来た。ただ肝心なですね、それをいい方へ使うという根本ですね、魂ですね、そこはまだ到達してない。そこでその魂ですね、いい方へ使うというそれを、人類に作らせなければならぬ。と共に、これを知らせなければならぬ。知らせると言ふ事は、私は始終、書いてゐるのです。で、信者の人はちよいちよゐてゐるのです。そこで私は約半年ばかり前から書き始めてゐるのが「文明の創造」と言ふ本です。で、この「文明の創造」と言ふ本の目的は、今までの文明は本當の文明ではない。本當の文明はさういふものだと言ふことを、医学、政治とか、教育、芸術、凡ゆる方面に涉つて、そして其の文明世界のやり方ですね、それを書くので、大体医学の方は、もうあらかた出来ていますけれども、まだ外のはこれから書いて……書くつもりです。出来たらそれを英文に訳して、そして世界中の大学から学界ですね、それから著名人と

か、さういふ人達に、出来るだけ広く読ませるべく色々々手段をとるつもりです。勿論ノーベル賞審査委員会にも出すつもりです。ですからあとにはノーベル賞審査委員はやはり唯文化の偉い人達ですか、私の説は最初から容易に受け入れ難いと思う。しかし皆偉い人達が、今求められているものですね、それを書くのだから「これだ」と言ふ事に気が附くには違ひないと思ふのです。さうしたらノーベル賞を私に十や二十よこしてもいい。そんな事で、このむろん「文明の創造」の本が出来たら、お膝元の日本の人達も大いに読んでもらいたいと思ふ。さうして一方知らせると共に、この浄土というものを、これはいかなる病氣もよく治ります。病氣を治すだけのものじゃない、つまり魂を治すのだから、魂にある悪です。悪つてこれを分り易く言へば、野蠻性ですね。野蠻性を取ると言ふ事は出来ません。魂がなかつたら生きてゐられないですから、つまり考へ方が変わる。つまり悪い分子ですね、悪い分子を溶かす、そしていい分子の方を多くする。それで人間はさういふ人達になる。凡ていい事をする。いい事をしなければならぬという事になる。それでそれは信者の人には、よく話すべきで、今の人は何か悪い事をしたい、悪い事をしたい。で、さう悪い事をしたいと思ふな

い。なんかこう正直にやるのは損だ、なおこり体裁よくですね、要領よくしよ。とさういふふうに向いてゐる。処がこれはアベコベなんです。さういふのはこれは私なんかも、昔はともそんな事を思はない。うまく世渡りした方がいい、さうして、要領よくやる、やるとそれが、利口ださういふふうで思つた時代があつたのです。けれども段々信仰によつて神様の事が分るに従つて、これは考へ方がアベコベだつた、さういふので今度はいい事をしたい。幾らでもいいから、何かいい事がないかと言ふ事ばかり心がけるようになった。少しでもいい事を手伝うと第一その人が仕合せになる事、人の気持のよくなる、嬉しくなる、満足するやうなと言ふ事ばかりがけるようになった。さうなつてから、私は非常に運がよくなつた。まあ、信仰を専門にやる以前にさういふふうな気持になると非常に来るのです。これは少しも世の中の人

に知らせるならどんなにかいい事か分らない。さういふ現実的に事を体験するにしがたつて、本當に神も悪魔もあるかという事がよく分る。先頃から段々々々色々々なこの、信仰の修養ですね、さういふ事をさせられた。そして私は非常に大きな使命を持つてゐるという事を色々々な奇蹟や、何かによつて、まざまざと知らされた。そして、メシヤ教と言ふ、所謂宗教として、今日活動して居るので

自然農法の御教え

三、自然農法の効果

（一）自然農法の効果

（二）自然農法の効果

（三）自然農法の効果

（四）自然農法の効果

（五）自然農法の効果

（六）自然農法の効果

（七）自然農法の効果

（八）自然農法の効果

（九）自然農法の効果

（十）自然農法の効果

（十一）自然農法の効果

（十二）自然農法の効果

（十三）自然農法の効果

（十四）自然農法の効果

（十五）自然農法の効果

（十六）自然農法の効果

（十七）自然農法の効果

（十八）自然農法の効果

（十九）自然農法の効果

（二十）自然農法の効果

（二十一）自然農法の効果

（二十二）自然農法の効果

（二十三）自然農法の効果

（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

（一）自然農法の効果
（二）自然農法の効果
（三）自然農法の効果
（四）自然農法の効果
（五）自然農法の効果
（六）自然農法の効果
（七）自然農法の効果
（八）自然農法の効果
（九）自然農法の効果
（十）自然農法の効果
（十一）自然農法の効果
（十二）自然農法の効果
（十三）自然農法の効果
（十四）自然農法の効果
（十五）自然農法の効果
（十六）自然農法の効果
（十七）自然農法の効果
（十八）自然農法の効果
（十九）自然農法の効果
（二十）自然農法の効果
（二十一）自然農法の効果
（二十二）自然農法の効果
（二十三）自然農法の効果
（二十四）自然農法の効果

大塚 博昭	上原 昭本光孝	山田 誠	長谷川万佐子	西村 直樹	長沢 雅子	岡田 保	長沢 光樹	岡野 光孝	岡田 亨	中嶋美津雄	岡野美由子	長瀬由美子
-------	---------	------	--------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------